3 年　2 月

■絵本

「3 びきのかわいいオオカミ」

・文：ユージーン・トリビザス

・絵：ヘレン・オクセンバリー

・訳：こだま　ともこ

・出版社：　冨山房

「3 びきのこぶた」を愛らしくアレンジしたストーリー。

きょうだいだけで暮らすことになった 3 びきのオオカミたち。カンガルーやビーバーにおうちづくりの材料を分けてもらい、がんじょうなおうちを建てます。わるいおおブタに、コンクリートのおうちも鉄のおうちも壊されてしまい・・・。

「もっとちがうものでうちをたてなくちゃ。なにをつかったらいいんだろ？」

最後にオオカミたちは、いったいどんなおうちを建てるのでしょうか。

（対象　幼児から）

■児童書

「目で見るSDGs時代の環境問題」

・著：ジェス・フレンチ

・訳：大塚　道子

・出版社：さ・え・ら書房

SDGs時代を生きる私たちにできること、知らなかった真実、この1冊でわかりやすく伝えています。

日本は、世界で最初に紙をリサイクルした国（平安時代～）なんです。古いものに新しい価値を加えて、作り変えるアップサイクルを得意とする人も多いのでは。2016年には大阪府堺市でプラスチックを食べる細菌が発見された事など、現在の世界環境を写真や絵でよく知る事ができます。どのページもカラーでわかりやすく、世代問わず読めておもしろい本です。

（対象　小学生以上）

■一般書

「日本の資本主義を作った男　渋沢栄一

～ドラッカーも魅了された“新 1 万円札の顔”の生き様と人生哲学～」

・出版社：　宝島社

2024 年から流通が始まる、新一万円札の顔になることが決定し、さらに 2021 年の大河ドラマの主人公として注目が集まっている渋沢栄一。明治から大正にかけて活躍し、生涯に関わった企業は約 500 を数えると言われる“偉人”です。

実業家でありながらお金に対する欲が薄く、「個人の富」より「国民の富」を優先に考え、さらに富を積むより学問や知識を活用し、生きがいを持つことを重要視しました。

このような主義の持ち主である渋沢が、どのような信念を持ち経営、社会教育をおこなってきたのかを、写真や名言などから、じっくりと読んでほしい一冊です。

（対象　一般）